

総資本経常利益率はROIなの？それともROAなの？

1. 総資本経常利益率

$$\begin{aligned} \text{総資本経常利益率} &= \frac{\text{経常利益}}{\text{総資本（＝総資産）}} \times 100 \\ &= \frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資本}} \times 100 \\ &\quad \text{（売上高経常利益率）} \quad \text{（総資本回転率）} \end{aligned}$$

総資本経常利益率は、事業活動に投下した総資本に対する経常利益の割合を示すもので、投下総資本の経営効率を見る上で最も重要な指標となっており、この比率が高いほど経営の収益効率と活動効率が良いことを示します。

2. ROI (rate of Return On Investment 投資利回り)

$$\text{ROI} = \frac{\text{当期純利益}}{(\text{期首総資本} + \text{期末総資本}) \div 2} \times 100$$

ROIとは、『投資利回り』と訳されている指標で、投資した資本でどれだけの最終的な当期純利益を生み出したのを見る指標です。稼いだ利益をその利益を得るために使った資本で割ったもので、企業の規模に関係なく、どれだけ効率よく企業が利益を獲得しているのかがわかる指標です。計算が簡単で企業や投資の規模に関係なく効率性を比較するのに便利な指標です。アメリカでは、投資の効率性を判断する指標として最も広く採用されています。

3. ROA (rate of Return On Assets 資産投資利益率)

$$\text{ROA} = \frac{\text{支払利息} + \text{税引前当期利益}}{(\text{期首総資産} + \text{期末総資産}) \div 2} \times 100$$

ROAとは、『資産投資利益率』と訳され、企業に投下されている総資産（＝総資本）が、「支払利息＋税引前当期利益」をどれだけ獲得したかを計算した指標です。ROAがROI

と異なる利益である「支払利息＋税引前当期利益」を使用するのは、借入金利との比較を行うためです。つまり、ROA で使う利益は、支払利息と税金を差し引く前のものを使うことによって、借入を行った場合の金利と比較することができるからです。

ROA の資産投資利益率と借入金利との差は、財務レバレッジ（財務上のてこ）と呼ばれ、安い金利でより多くの利益を上げていることを示しています。このように、企業の資産投資利益率が借入金利より高い場合は、金融機関等からお金を借りて事業を行うことは「この原理（財務レバレッジ額＝借入額を事業に投資して得られる利益と支払った利息の差）」が働いて企業にプラスなる場合が多くなります。

借金経営が良いか悪いかは、経済環境と経営状況を関連させて判断する必要があるのはこのためです。

4. まとめ

総資本経常利益率、ROI（投資利回り）、ROA（資産投資利益率）共に分母は同じ総資本（＝総資産）です。しかし、分子の利益の採り方によって指標の意味合いがかなり変化することがわかります。

似た計算式だとどれも同じように感じますが、どこの利益を使うかでまったく異なった結果が出てきます。これは指標そのものの目的が異なるからです。ですから指標の目的を理解することが大切になります。

日本では、総資本経常利益率のことを ROA（資産投資利益率）と呼んだりしていますが、厳密に利益の捉え方から見ると ROA（資産投資利益率）ではないようですネ。